

中欧2009年夏

渡辺 肇

倉敷芸術科学大学産業科学技術学部

(2009年10月1日 受理)

1) プロイセン王国の復活？

1871年に建国されたドイツ帝国（ドイツ第2帝国）はプロイセン王国、バイエルン王国、ザクセン王国、ヴェルテンベルク王国等25の連邦構成国と連邦直轄地のエルザス・ロートリンゲンから構成されていた。1806年まではドイツ民族の神聖ローマ帝国（ドイツ第1帝国）皇帝であった、ハプスブルク家が支配するオーストリア帝国を1866年の普墺戦争で破りドイツから排除し、1870年の普仏戦争でナポレオン3世のフランス帝国を破った結果ホーエンツォレルン家のプロイセンが宰相ビスマルク、参謀総長モルトケ等の活躍でドイツを統一したのであった。

ドイツ第2帝国ではプロイセン国王がドイツ皇帝を兼ねていた。プロイセンはドイツ諸国の中で最も軍国主義的であり、強力な陸軍を擁しドイツ軍国主義の中心であった。1918年のドイツ革命でドイツ帝国とその構成諸国はすべて君主制が崩壊し、1919年にはヴァイマル共和国が成立した。ヴァイマル共和国も連邦制を引継いだのでプロイセン国は存続を続けた。ヒトラーの第3帝国になってもプロイセンは存続したが、第2次世界大戦に敗北しドイツが米英仏ソの4カ国連合軍によって占領統治されていた1947年に、プロイセンは法的に抹殺され消滅したのである。

プロイセンが抹殺されたのはドイツを二度と軍国主義国家として

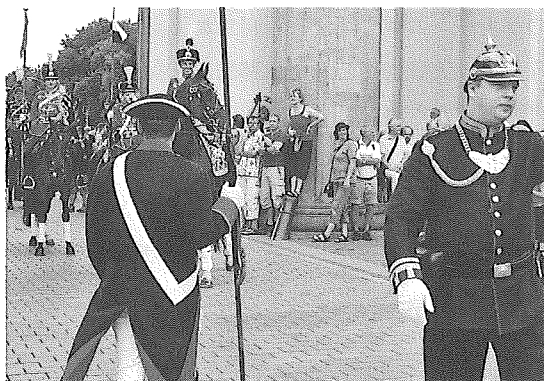


図1. 憲兵の交通整理下ブランデンブルク門を通過してベルリンに入城するプロイセン騎兵隊

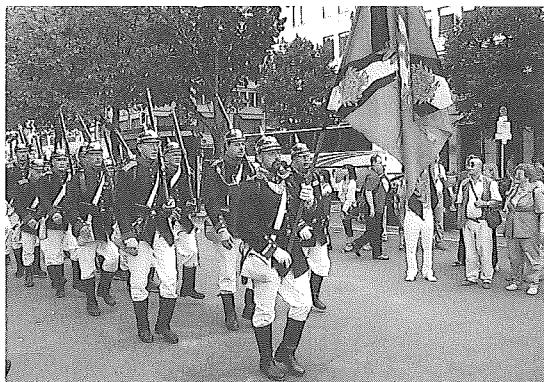


図2. ウンター・デン・リンデンを進軍するプロイセン歩兵隊

復活させない為であった。だから、第2次大戦後は、プロイセンは死語のような存在であった。しかし、1990年のドイツ再統一から20年が過ぎドイツ人の中には徐々に国粹的な思いが復活しつつある様だ。第2次世界大戦中に大きな損傷を受け、戦後東独の共産主義者達によって、修復される代りに、破壊されてしまったプロイセン王宮の再建計画が進行中であるのは以前にも報告した次第だ。

今年の夏、小生がベルリン訪問をしていた8月28日に第2帝国の三代の皇帝、ヴィルヘルム1世、フリードリッヒ3世、ヴィルヘルム2世に扮した3人がプロイセン陸軍の軍服に身を包み馬車に乗って、更に総勢300人程度が、歩兵、騎兵、憲兵、軍楽兵などに扮装して、ブランデンブルク門から旧王宮を經由して旧東独が1987年のベルリン750年祭を契機に建設した時代村のニコライ地区まで、目抜き通りのウンター・デン・リンデン街を通して分列行進を行ったのだ。これには若干驚いた。単なる時代行列と見ることも可能ではあろうが、これだけの行事にはかなりの費用がかかる筈だ。参加者全員に日当を支払えば大変なことになる。しかも企業の宣伝は全く表には現れていなかった。おそらく参加者の大部分は手弁当のヴォランティアだろう。大の大人がこの様な行事を行うのはドイツの過去に対する郷愁があるからなのだろう。ベルリンはプロイセンの首府であった。そのベルリンの中心部で、否定されてきた過去への郷愁を公然と表現できる様になったというのは、敗戦国民として精神的にも抑圧されてきたドイツ人の大いなる変化である事に注目せねばならぬ。

また同じウンター・デン・リンデンに面した^{クローンプリンツェンパレ}旧皇太子宮殿では第2次世界大戦の敗北によって数百年間にわたって居住してきた東プロイセン、ボンメルン、シュレージエン、ズデーテンランド等から追放された1500万人以上といわれるドイツ人達の追放前の暮らしを示す展覧会が開催されていた。

プロイセン王宮の再建、プロイセンの時代行列、旧領土への郷愁展、これらの要素はバラバラのように見えて、実は根が繋がっているのだと思うである。

2) ロルフ・ホッフートの闘い

今年78歳であるロルフ・ホッフートはドイツの有名な劇作家だ。彼の作品『神の代理人』は日本でも上演された事がある。1963年に彼はこの作品でユダヤ人迫害はナチスだけが行ったのではない。ローマ法王ピオ12世も暗黙の支持をしていてユダヤ人迫害の共犯者だと現代史のタブーに挑戦し、一躍世

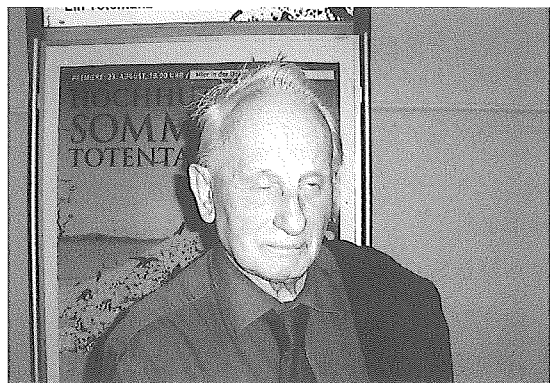


図3. ホッフートの写真

界にその名を知られる様になったのだ。

このホッフホフトがドイツの新聞を賑わせた。8月21日の事だった。ベルトルト・ブレヒトが創立した劇団ベルリーナー・アンサンブルが本拠としているのが中央区(旧東ベルリン)所在のシッフバウアーダム劇場だ。ブレヒトの有名な戯曲『三文オペラ』が1928年に初演された場所だ。この劇場の唯一の所有者が不思議な事にホッフホフトが主宰する財団なのだ。この財団がベルリン市と賃貸契約を交わし、ベルリン市がベルリーナー・アンサンブルに使用させている訳だ。

賃貸契約によればベルリーナー・アンサンブルが公演を休んでいる7月、8月にはホッフホフトの財団が5週間まで自分で使用しても良いという事になっているようだ。ホッフホフトは8月23、24、25、26日に自分の作品『1914年の夏——死の乱舞』を自分自身の演出でシッフバウアーダム劇場で上演しようとしたのだが、ベルリン市政府は通知が遅すぎるとして拒否した。何か複雑な理由がある様だ。この戯曲は第1次世界大戦の勃発が如何にして起こったかを描いた作品だ。ベルリーナー・アンサンブルの現在の総監督はクラウス・パイマンであるが、パイマンは以前ドイツ語圏の名門劇場ヴィーンのプロク劇場総監督であった。そのパイマンが1990年にブルク劇場でホッフホフトの『1914年の夏——死の群舞』を初演しているからだ。

シッフバウアーダム劇場の使用を拒否されたホッフホフトはやむなく成人教育のための貸劇場であるウラーニア劇場に急遽上演場所を変更せざるを得なかった。怒り心頭に発したホッフホフトは8月20日にシッフバウアーダム劇場前のベルトルト・ブレヒト記念碑前で午前11時に記者会見を行うと発表して新聞記者を集めた。時間になるや否やホッフホフトは夏季休演中のシッフバウアーダム劇場に突進した。前売り券を発売していた係員が制止しようとしたが、自分はこの劇場の唯一の所有者だ。文句があれば警察を呼べと叫び、記者たちを引連れて2階のホワイエに突入し、ベルリン市当局とベルリーナー・アンサンブルの不当性を弾劾したというのがこの事件であった。ベルリン市当局はノー・コメント、ベルリーナー・アンサンブルのパイマン総監督はパリで休暇中との事でこれもノー・コメント、ホッフホフトのやや異常な行動に対しては何の反論も聞けなかった。現在この紛争は法廷に場所を移して継続している。

私は23日には、おりしもオリンピック競技場で開催されていた世界陸上選手権の最終日を見物に行き、女子マラソンと槍投げで日の丸の揚がるのを見る事が出来たのだが、その日はウラーニア

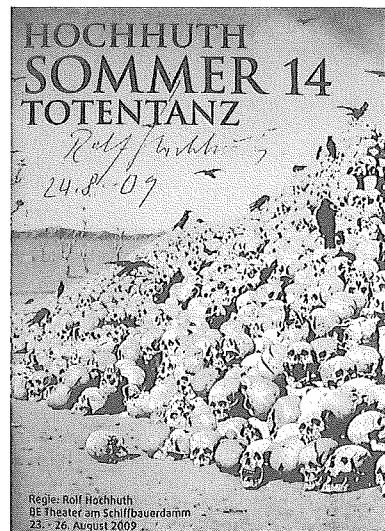


図4. ホッフホフトのサイン入りプログラム

劇場で『1914年の夏——死の群舞』初演の日であった。それで、2日目の24日にこの劇を見に行った。席は総てが自由席で、劇場の入りは2～3割といったところであった。1列目の真中に座ろうとしたが、その席だけライトで照らされていて眩しいので、2列目の真中に座った。開始の直前に一人の老人が来て、私が座ろうとした1列目の中央に座った。彼は開演中に舞台を見たり、台本を見たり忙しそうにしていた。第1幕目が終わる際に、終了、休憩と叫んだ。それでその老人が自らが演出をしていたホッフホフトであると分かった次第だ。なお出演した役者の総てはホッフホフトが失業者を集めて訓練した人達だそうだ。第1幕と第2幕目の幕間にホワイエでホッフホフトと話しをした。日本から印税が入るせいかホッフホフトは日本に好意的であった。それでホッフホフトの写真を撮らせて貰い、プログラムの表紙にサインもして貰った。ベルリンというのはこんなハプニングも生ずる面白い街だ。

3) ルーディー・デウチュケ通り

ベルリン滞在中はノイ・ケルン区にあるホテルに宿泊していた。近くに地下鉄7号線のグレンツ・アレー駅がある。24日に『1914年夏——死の群舞』を見るためにウラーニア劇場に行こうとしたが何処にあるのか分からない。ホテルの受付嬢に聞くと、グレンツ・アレー駅からヘルマン・プラッツ駅にいて、そこが始発のM28バス

に乗ればウラーニア劇場の真前で停まる、との事だった。早速ベルリン名物の2階建バスに乗って2階席の1列目に座ってウラーニア劇場に向かった。途中、バスが信号で停車した。ベルリンではどの交差点でも通りの名前を示す道標が設置されていて街が非常に分かりやすい。そこで今何処を通っているのかと道標を見るとルーディー・デウチュケ街とあり驚いた。早速カメラを取り出して撮影した。

なぜ驚いたかという、ルーディー・デウチュケというのはベルリンの学生運動で鳴らした新左翼の運動家であったから、とても、街の名前になっているとは思えなかったからだ。1968年は世界で学生運動が大きな影響力を与えた年であった。アメリカがヴェトナムへの侵略戦争を拡大した事に対する抗議と、第2次大戦後20年以上が経過し重苦しくなった体制に対する若者の叛乱であったのだ。運動は日独仏米の四カ国に於いて特に激しかった。日本だと東大全共闘の山本義隆氏、日大全共闘の秋田明大氏が有名であるが、ドゴール大統領を結局は退任にまで追込んだ事になったフランス学生運動の指導者コーン・バン

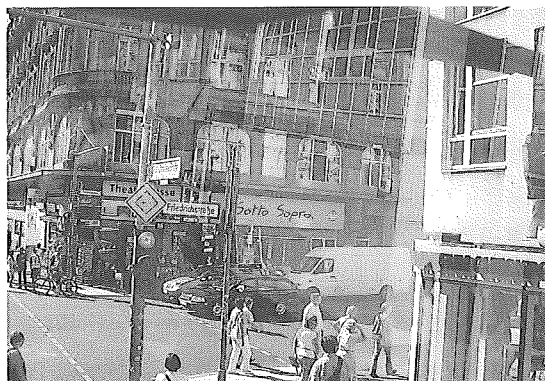


図5. バス車中から見たルーディー・デウチュケ通りの道標

ドイツ、ドイツ・ベルリンのルーディー・デウチュケの名前は世界に広がっていたのだ。したがって、デウチュケの名前が地名になるのは、日本で山本氏や、秋田氏の名前が地名になるのと同じことで、そう簡単に行われるとは思えなかったのだ。

観劇を終えて夜ホテルに戻ってから何種類かのベルリン市街地図でこのルーディー・デウチュケ通りの位置を確認しようとしたのだが、そんな通りは全く存在しない。撮影した写真をバカチョン・デジタル・カメラの映像で確認しようとしたのだが小さすぎて何も分からない。似たような名前を見て間違えたのかなとも思った。しかし何か気になり、^{ワザワザ}夢幻であったのかどうか確認する事にした。

ルーディー・デウチュケは 1940 年にベルリンの南方 50 km のシェーネフェルト・バイ・ルッケンヴァルトで生まれた。1945 年からはソ連占領地区となり、1949 年にそこは東独となった。デウチュケは少年時代を東独で過ごし FDJ（ドイツ自由青年同盟、共産党の下部組織で日本の民主青年同盟の様な青年組織）に加盟した。しかし 1956 年のハンガリー動乱を見てスターリン主義に疑問を持つ様になり NVA（東独人民軍）への兵役義務を拒否した。その結果、大学への進学を拒否され、1961 年ベルリンの壁ができる直前に西ベルリンに移住した。西ベルリンでは東独のアビツァア（大学入学資格）は認められていなかったため、再度西側のアビツァアを取得して、西ベルリンのベルリン自由大学で学生生活を開始する。1967 年イランのパーレビ皇帝夫妻が西ベルリンを訪問した際にイラン国内の抑圧体制に抗議する学生デモ隊の 1 人が警官に射殺され、西ベルリンの学生運動は一気に燃え上がりベトナム反戦運動に突入する。そのリーダーとして頭角を現したのがデウチュケだ。右翼的言動で大きな力を有していたアクセル・シュプリンガー社の発行する多種多様な新聞で国賊として名指しで非難されたのがデウチュケだ。その結果、1968 年 4 月 11 日西ベルリンの SDS（ドイツ社会主義学生同盟）書記局前で一人の右翼少年に拳銃で狙撃される。頭に 2 発、肩に 1 発の銃弾が命中しデウチュケは瀕死の重傷を負う。この事が更にドイツの学生運動を激化させるとともに、デウチュケの名前も世界に知られる事となる。デウチュケは回復後も新左翼運動を続け緑の党の創設にも関与するが、狙撃の後遺症のため 1979 年 12 月 24 日に自宅の浴槽で溺死する。遺体はベルリン・ダーレムの墓地に埋葬される。墓地には空きがなかったが、著名な神学者マルチン・ニーメラーが自分のために取っておいた場所を提供する。葬儀には 6,000 名の人が集まったとの事だ。

2004 年末にデウチュケの死去から 25 年となった。それを記念してベルリンの新聞ターゲットスシュピーゲル (TAZ) が因縁のアクセル・シュプリンガー社の近くの道路をルーディー・デウチュケ通りと改名しようと提案し署名運動を開始する。2006 年 4 月 1 日には区議会でのこの提案が可決される。アクセル・シュプリンガー社はこれに反対して、メルケル首相の所属する CDU（キリスト教民主同盟）を中心に改名反対の署名運動を開始し、裁判所にも異義申立を行う。改名派はこれに対して住民投票を提起し 58% の多数で改名派が多数を占める。アクセル・シュプリンガー社は裁判でも敗れ、控訴する。2008 年 4 月

21日控訴は棄却され、4月30日に改名が効力を発し、新しい道路名の看板が掲げられる。その式にはアメリカ人のデウチュケ未亡人と3人の子供が招待され、夫人が英語なまりのドイツ語で挨拶しルーディー・デウチュケ街が誕生したのだ。つまり、私が見た道路名看板は夢幻ではなかった事が判明したのだ。

いずれにしても感じたのはドイツ・ベルリンの政治的度量の広さであった。

4) 元ドイツ赤軍派メンバーの再逮捕

8月29日のドイツの各種新聞はRAF（ドイツ赤軍派）のメンバーであったフェレーナ・ベッカーの逮捕を大きく報道した。ベッカーは1952年7月31日生まれで57歳の女性である。彼女は1972年にベルリンの英国ヨットクラブに爆弾を仕掛け1人を殺害したとして初めて逮捕された。1975年に保守政党CDU（キリスト教民主同盟）ベルリン支部長ペーター・ローレンツがRAFに誘拐され人質とされ、ベッカーはローレンツと交換に刑務所から出されイエーメンに逃亡した。何週間か後の4月7日に最高裁判所が所在するカールスルーエで検事総長のジークフリート・ブーバックが射殺された。ブーバックが乗車していた乗用車に1台の日本のスズキ製オートバイに乗った二人が接近し軽機関銃で検事総長、運転手、他にも警備の警官1人が射殺された。間もなくRAFメンバーの若い男性3名が実行犯として逮捕された。ベッカーは5月3日に再度逮捕され1977年に終身刑の判決を受けたが、検事総長射殺事件については訴追されなかった。ベッカーは17年間服役した後、1989年にヴァイツゼッカー大統領によって恩赦され、以後ベルリンで暮らしてきた。

検事総長暗殺事件には謎が残った。検事総長の息子は、目撃証言によればオートバイの後部座席に乗って軽機関銃を発射したのは華奢な体格の人物であったとの事であるから、射殺犯はベッカーに違いないと長年主張してきたにもかかわらず、検察当局はベッカーを訴追しないままであった。とこ



図6. ベッカーの逮捕を報ずる新聞



図7. 検事総長殺害事件の現場写真(白いカバーを掛けられた検事総長と運転手の遺骸が見える)

ろが近年急速に進歩した DNA 鑑定の結果、検事総長暗殺の犯行声明文を入れた封筒に付着していた唾液の DNA がベッカーのものと一致した。それが今回の再逮捕の理由だ。今ドイツで話題となっているのは検察当局とベッカーの間で司法取引が行われたのではないかという事だ。検事総長射殺事件の実行者 3 名の氏名をベッカーが教える代りに、ベッカーをこの件では訴追しない事を約束し、更には多額の金員をも提供したのではないかとの疑惑が生じているのだ。それでマスコミはベッカーの司法関係書類を開示せよと要求しているのだが、政府側関係者のショイブレ内務大臣等はそれを一切拒否している。日本では殆ど報道されていない事件ではあるが、ドイツでは更に発展しそうな事件だ。

RAF というのは当初バーダー・マインホーフ・グループと呼ばれた組織であった。バーダーというのは男性の無政府主義者で、マインホーフというのはインテリ女性で雑誌記者であったがイラン皇帝がベルリン訪問した際の学生射殺事件や、ルーディー・デウツケ暗殺未遂事件に抗議した学生デモがアクセル・シュプリングー社前で大弾圧を受けたのを目撃し、衝撃を受けた結果、バーダーとグループを結成し武力闘争を開始したのだ。しかしバーダーや他のリーダーとともに逮捕され、監獄内で法廷闘争を行っていたが突然他の同志と一緒に集団自殺を遂げた。獄外の仲間はこれを官憲による集団虐殺だと主張し、テロを益々先鋭化させていったのだ。

日本でも全共闘運動が挫折すると連合赤軍のテロ活動が拡大するが民衆の支援を受ける事は出来なかった。これに対し RAF はかなり広範な支持を得て隠れ家や運動資金を提供する者が多かったとの事だ。日本ではリーダーの永田洋子や重信房子を崇拝する人はほとんどいないが、ドイツでは未だにマインホーフを聖女化する人々が少なくないようだ。

5) ゲッベルス、ヘス、ボルマン、アーデナウアー、ピークの夢のあと

2007 年には新築の首相官邸、航空省跡の大蔵省、2008 年には陸軍司令部跡の国防省、ドイツ帝国銀行跡の外務省を訪問した。今年ゲッベルスの宣伝省跡の労働厚生省とナチス党官房跡の食糧、農業、消費者保護省を訪問した。ゲッベルスの執務室があった建物自体は消滅しているが、宣伝省本体の建物は残り、厚生労働省としてそのまま使用されている。日本の場合古い建物は総て建替えてしまうので歴史をそのまま感じる事が出来ないのは淋しい事だ。

東京では官庁街の代名詞は霞ヶ関であるが、ベルリンではヴィールヘルム街だ。ヴィールヘルム街はドイツ第 2 帝国の初代皇帝の名前から命名されたのであるが、東独治下の 1964 年にはその初代首相が死亡した際に、その名前を記念してオットー・グローテヴォール街と改称されていたのが、ドイツ統一後の 1993 年に元の名前に変更された。この通りは南北に走っている。帝政時代には東側にはプロイセン王国の、西側にはドイツ帝国の官衙が並んでいた。ヴァイマル共和国の時代にも基本的にその配置は変わらず、西側に沿って大統領官邸と首相官邸が配置された。第 3 帝国の時代には首相官邸がヴィールヘルム

街とフォス街角に拡大移転されて、最終的にはヒトラーがそこで自決する。現在のヴィルヘルム街には49番地に厚生労働省が、54番地に食糧、農業、消費者保護省が、そのほかに97番地に大蔵省（ヘルマン・ゲーリングの航空省の跡）が位置している。

ゲッペルス¹の宣伝省の建物は1918年の革命以前はフリードリッヒ・レオポルト親王の御殿であった。革命後にエーベルト初代大統領の官邸となる話があったが、エーベルトが拒否したので帝国政府¹の広報局がこの建物を使用した。建物の家主はプロイセン国で帝国政府に賃貸した。1933年にヒトラーが政権を握ると宣伝省が設置され、ゲッペルス宣伝大臣の本拠となったのである。第2次世界大戦でこの建物のかなりの



図8. 労働厚生省（ゲッペルス時代の宣伝省）

部分が破壊されたが、残存の部分の一部は東独政府の情報局として、他の部分は国民戦線全国評議会に使用された。東独初代大統領ヴィルヘルム・ピークの執務室があった事もあり、その部屋は現在も残されている。1990年のドイツ統一の後ボンからベルリンに連邦政府が移転する事になりこの建物の復旧工事が開始され、1997年に一部が完成、2001年に残りが完成して、労働厚生省が移転して今日に至るのである。建物の内部が殆ど破壊されたため往時を偲べるのは、建物の外観以外には一部の階段室やエレベーターくらいで残念ではあるが、それでも若干は昔の面影を伝えているのである。

次に訪問したのが食糧、農業、消費者保護省であった。この建物は1918年革命の前にはドイツ皇帝およびプロイセン国王の枢密院であった。革命後はプロイセン首相官邸となった。社会民主党員のオットー・ブラウンが1922年より1932年までプロイセン首相を務めたのであるが1932年7月20日に帝国宰相パーベンが自分の自由にならないプロイセン政府を黙らせるためクーデターを起こし、国防軍を使用してプロイセン首相官邸を占拠しブラウンを追放したのである。また、後に初代西独首相となるコンラート・アーデナウアーは中央党に属しブラウンの政敵であったが、1917年から1933年のヒトラー政権発足まではケルン市長を務め、1918年からはプロイセン上院の終身議員を務めるとともに、1921年より1933年までプロイセン国家評議会議長を務め、1932年から1933年までこの建物の一画を官舎としていた。

1933年4月にはヘルマン・ゲーリングがプロイセン首相となるが帝国航空大臣をも兼務していたので官邸は航空省の近くのライプチヒ街に置いた。この建物はプロイセン文化大臣ベルンハルト・ルストが使用した。1934年にはナチス党総統代理のルードルフ・ヘスとその部下がこの建物を使用した。後の外務大臣ヨアヒム・リッペントロップも再軍備

問題担当として事務所を置いていた。1941年にヘスが英国との講和を図るため自らメッサーシュミット Bf110 双発戦闘機を操縦してスコットランド行ってしまうと悪名高いマルチン・ボルマンがナチス党官房長としてこの建物を使用した。戦禍を被った後にこの建物は1950年代に応急修理されフンボルト大学（東ベルリン大学）の学生寮となった。その後大学高等専門学校局となり、1970年から1990年のドイツ再統一までは東独政府出版局となった。連邦政府のボンからベルリンへの移転に伴いこの建物も修復され2000年には食糧、農業、消費者保護省となって現在に至っている。

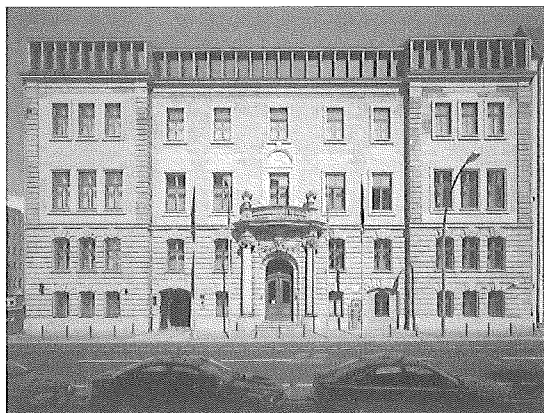


図9. 食糧、農業、消費者保護省（マルチン・ボルマン時代のナチス党官房）

6) ベルリン地下鉄の新路線

8月8日にベルリン地下鉄55号線が新路線として開通した。長距離列車と国電が発着する新中央駅から連邦議会駅を経由して国電2号線に乗換できるブランデンブルク門駅までの1kmあるかないかの短い路線だ。それに伴い 従来の国電のウンター・デン・リンデン駅もブランデンブルク門駅と改称された。ウンター・デン・リンデンという街路は東西に走る通りであるがその下には地下鉄が敷設されていなかった。国電2号線はウンター・デン・リンデンを南北に縦断しているだけであった。ところが地下鉄55号線はウンター・デン・リンデンの下を西から東に通抜け交通の要衝アレクサンダー・プラッツ駅まで延長される計画だ。そこが終点になっている地下鉄5号線に接続させ、ベルリン東部の市境まで直通運転する計画なのだ。ウンター・デン・リンデンという名前は南北に走る繁華街のフリードリッヒ街と交差する場所に設置する新駅に与える予定なので、従来のウンター・デン・リンデン駅をブランデンブルク門駅と改称したとの事だ。

そこまでは理解できるのだが、ちょっと気になる事があった。国電2号線の新駅名看板の他に旧来の駅名表示がそのままとなっていた。国電2号線はナチス時代に建



図10. 新旧駅名が表示されているブランデンブルク門駅

設されたもので、駅名の表示も旧字体である。記念物保護の趣旨でそのまま残すのだという。この事も理解できる。理解できなかったのは次の事だ。国電に乗ると録音された次の停車駅の名前が車内放送される。それが依然としてウンター・デン・リンデンなのだ。また電光表示される次の停車駅名もウンター・デン・リンデンのまま



図 11. なおも旧駅名が表示されている車内案内

なのだ。ドイツ人は几帳面であるのが有名であった。日本であれば駅名の改称は前もって分かっているのだから、改称初日から車内放送も、車内表示も直ちに变更される筈だ。なぜベルリンではそんな事ができなかったのか？ドイツ人の気性に大きな変化が生じているのではないかと少し気になったのだ。

同じウンター・デン・リンデンに国立歌劇場がある。8月29日がシーズンの初日でリヒャルト・ヴァーグナーの『トリスタンとイゾルデ』で幕をあげた。指揮は総監督のアルゼンチン出身のユダヤ人ダニエル・バレンボイムだ。去年は1階席の1列目の席が買えたが、今年は2階席正面のやや右側だ。昨年と同様にケーラー大統領が2階席正面の1列目に座っている。私の席のすぐ左側だ。去年は大統領が入場する際に支配人が幕の前に出てきて観衆に起立と拍手を促したが今年は何も行われなかった。後で案内係にその理由を聞くと、今回の訪問は私人としてだからだとの事だった。実はその他にも理由があった。国立歌劇場が老朽化し来年から大修理に入る。その間はオペラ公演も行われない。国立歌劇場はベルリン市に属するのだが、ベルリン市は貧乏な街で必要な金がない。民間からの資金導入を図るしかない。この初日はBMWのベルリン販売会社がスポンサーとなっていた。歌劇場横の広場に大きなスクリーンを設置して場外に特大のスクリーンを設置、ライブで中継し無料で見物できるようになっている。その費用も総てBMW社が負担している。ベルリン市民には貧しい人が多いので、オペラに払う金がない。だから千人を超える人が集まり驟雨にも耐えてオペラを見物したのだ。だから公演の前にはBMW社の宣伝をしなければならぬ。それで大統領の紹介が全くなかった訳だ。し



図 12. 国立歌劇場でのケーラー大統領(手前の横顔の人物が大統領)

かし国家を代表する人を遇するのにこんな事で良いのかと考えさせられた次第だ。

また奇妙な経験をした。一人の若い男が公演前に私の近くに着席した。まわりをきよろきよろと見渡し落ち着きがない。その席に誰かが来ると他の空席に移る。席を何度か移動したが常に誰かがそこに来る。最後は諦めて壁際に立っている。それはもちろん許されない。幕が上がる直前にやっと空席を見つけてそこに着席した。明らかに切符を持っていないのだ。国立歌劇場では切符のチェックは入口であるのみであるから一番安い立見席でも買っておけば、この様な事が出来る。以前のドイツ人は非常にうるさい人々で他人の不正に対しては自分に直接関係がなくとも注意する人が多かった。だが今回は誰も注意する人がいなかった。自分で金を払わないで BMW 社の招待券で来ていた人が多かった所為かもしれぬが、またもやドイツ人の気性の変化を感じた次第だ。

7) ベルリンの新空港

ベルリンの空港と言えば、1923 年に開港され、有名なターミナルビルが 1936 年から 1941 年にかけて建設された、テンペルホーフ空港であった。帝政時代はプロイセン陸軍の演習場として使用されていた広大な土地が民間空港に転用されたのだ。1970 年代までは

西ベルリンの唯一の民間定期便の発着空港として使用された。1948 年から 1949 年にかけてのスターリンによるベルリン封鎖の際にも米英仏の物資空輸の中心であった。ベルリン封鎖の際に急速建設されたテーゲル空港が拡大され、1975 年からは、テンペルホーフ空港は主役を譲ってはいたが、ベルリン市民にとっては思い出深い空港であった。しかし、ドイツ再統一後は状況が変わる。ベルリン市境外の南東に 1934 年発足のヘンシエル飛行機製造会社シェーネフェルト工場に端を発する、東独中央空港であったシェーネフェルト空港がある。ドイツ、ベルリンが統一された事でベルリンに 3つの飛行場が存在する事になった。いずれもドイツの中心空港のフランクフル

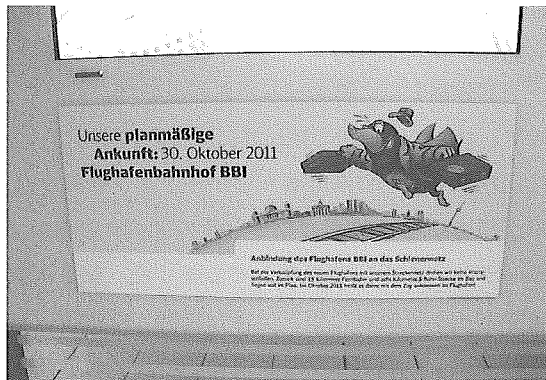


図 13. 新空港ベルリン・ブランデンブルク・国際空港の鉄道駅の完成予定を予告する看板

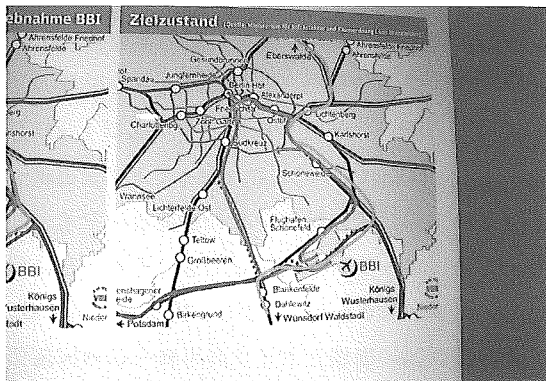


図 14. 新空港と連絡する鉄道網の地図

トの空港と比べれば規模も小さく、設備も貧しい限りだ。それで、首府にふさわしい空港をどうするかという議論が闘わされた。結論はベルリン市とブランデンブルク州²と連邦政府が共同でシェーネフェルト空港を拡大強化してベルリン・ブランデンブルク・国際空港（BBI）を建設するという事となった。それで既存のテンペルホーフ空港とテーゲル空港は廃止するという結論となった。歴史の浅いテーゲル空港はともかくもテンペルホーフ空港の廃止には異論が続出し、廃止の是非を問う住民投票が行われたが僅差で廃止が決まり、2008年10月30日に廃止された。2011年10月30日には新BBI空港が完成すると、テーゲル空港も廃止される。新BBI空港の建設工事も今のところ順調に進んでいる。

8) 第2次世界大戦勃発70周年

1939年9月1日はヒトラーが旧領土の回復を図ってポーランドに攻め込んだ日だ。この事が結局第2次世界大戦を勃発させ、ドイツにもポーランドにも大きな被害をもたらしたのだ。歴史的にみればゲルマン民族のドイツが東部のスラヴ民族居住地に進出し、同化してきた既成事実がある。ドイツ人にスラヴ系の苗字を持つ人がかなりいるのはその所為だ。数百年に亘ってこの様な既成事実が出来てしまうと、その解決は困難なものとなる。

第1次世界大戦の結果、ポーランドが復活し旧ドイツ領と、旧オーストリア領と、旧ロシア領を合わせて新ポーランドを建設したのは、18世紀に3度にわたって行われたポーランド分割を元に戻す試みであったのだ。しかしながら、150年に亘るドイツ、オーストリア、ロシアの統治で他民族に同化されてしまったポーランド人も多く、第1次大戦後の住民投票でスラヴ系でありながらドイツ帰属を選んだ人々も多かった。第1次大戦後20年が経過した1939年になると西のドイツと東のソ連がヒトラー・スターリン密約を結びポーランドを両国で分割してしまった。第2次大戦でドイツは敗れたが、ソ連は勝利したので、ソ連は獲得した旧ポーランド領はそのまま自分のものとしておいて、その代替としてドイツの東部をポーランドに割譲した訳だ。東プロイセン、シュレージエン、ポンメルン等には数百年に亘ってドイツ人が居住してきた。それらの人々を弊履の如く追放した訳だ。追放されたドイツ人は1,500万人に上ると言われている。したがってドイツとポーランドの関係は誠に難しいものがある。ドイツにとっても、ポーランドにとっても、それぞれに言い分があるからである。しかし、1989年に始まる、社会主義諸国の崩壊とドイツの再統一は両国関係を新しい関係をもたらせた。もはや戦争によって

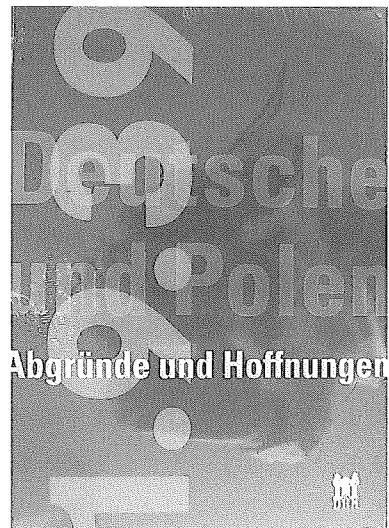


図15. ドイツ・ポーランド展カタログの表紙

は問題を解決できないのだ。しかも、両国は欧州連合 (EU) のメンバーになっているのだ。両国は未だにこの問題に悩んでいる。

しかし開戦 70 周年を契機にベルリンのドイツ歴史博物館でポーランドからも多数の資料が提供され、「越えがたい溝と希望」と称するドイツ・ポーランド関係史展が開催された。展示説明もドイツ語だけではなくポーランド語でも行われていた。ポーランド人も多数訪問していた。両国関係の改善には誠に困難が多いのだが、この様にして歴史認識を共有していければ何とか未来を拓く事が出来るのではないのかと思えたのだ。日本も他山の石とすべきであろう。

(註)

1. 帝国というのはReichという言葉^{ライヒ}を訳したもので、そこには君主制であるとの意味は包含しない。ドイツは1648年のヴェストファーレン講和条約により法的にも各領邦諸国が主権を持つ事となった。ドイツは多数の小さな国々に分かれたのである。これらのドイツ諸国を全体として表すのがReichという概念であった。したがって、ヴァイマル共和国においてもヒトラーの第3帝国においてもReichという言葉が使用されるのである。厳密に訳すとすればプロイセン等の各領邦諸国に対してドイツ全体を包含する国という意味であるが、慣習に従って帝国と訳した。なお現在ではReichという言葉の代わりに^{ブント}Bund (連邦) という言葉を用いている。
2. ベルリン市もブランデンブルク邦もドイツ連邦共和国を構成する邦であって、その地位は同等である。

Mitteleuropäischer Sommer 2009

Hajimu WATANABE

College of Science and Industrial Technology,

Kurashiki University of Science and the Arts,

2640 Nishinoura, Tsurajima-cho, Kurashiki-shi, Okayama 712-8505, Japan

(Received October 1, 2009)

Rolf Hochhuth ist ein berühmter Dramatiker und Schriftsteller in Deutschland und auch in Japan sehr bekannt, besonders mit seinem Werk "Der Stellvertreter". Zu einem Eklat kam es nun am vergangenen 20. August am Berliner Ensemble.

Das Theater am Schiffbauerdamm in Berlin ist der Sitz des Berliner Ensemble. Der Dramatiker ist über die Holzapfel-Stiftung der Eigentümer des Theaterbaues, der an den Berliner Senat vermietet wurde. Der Senat wiederum überlässt das Haus der Berliner Ensemble GmbH mit Claus Peymann als Geschäftsführer. Laut Mietvertrag hat Hochhuth in den Sommerferien das Recht, die Bühne für fünf Wochen zu nutzen, muß dies allerdings rechtzeitig anmelden.

Für 2009 soll das, laut Senatskulturverwaltung, nicht pünktlich erfolgt sein. Einen Prozess dagegen verlor Hochhuth bereits, die Berufung gegen das Urteil sagte er jetzt ab. Somit wurde "Sommer 14—Totentanz" an der Urania aufgeführt.

Hochhuth war sehr verärgert über diese Situation. Als er die Presse-Leute zu einer Presse-Konferenz am Brecht-Denkmal vor dem Theater versammelte, um den Journalisten seine Sommerinszenierung vorzustellen, eilte er ganz plötzlich zum Theater hin, stürmte die Treppen hinauf, betrat das Theater, und gelangte in das Foyer im ersten Stock. Dabei stieß er auf den Widerstand einiger Angestellten. Hochhuth rief daraufhin "Holt die Polizei, wenn man mich hier rausschmeißen will! Ich bin der alleinige Besitzer dieses Hauses!" Anschließend beschimpfte er Claus Peymann und bezeichnete den Regierenden Bürgermeister Klaus Wowereit und den Kulturstaatssekretär Andre Schmitz als "Kulturproleten"

1 Rolf Hochhuth, *Sommer 14—Ein Totentanz*, Reinbeck bei Hamburg, 1992